

施策番号	331	施策名	学校教育の充実	主管課名	学校教育課
総合計画 体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和 2 年度課長名	金平 美和子
	関係課名			シート作成者	片田 篤志

1. 施策の対象と意図の指標

①施策の対象(誰、何が対象か)		③対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア	小学校児童	→	ア 町内の小学校児童数	人	見込値 実績値	640	650	659	661	634
イ	中学校生徒	→	イ 町内の中学校生徒数	人	見込値 実績値	308	312	313	312	325
ウ	学校施設	→	ウ 町内の幼稚園・小中学校数	校	見込値 実績値	10	10	9	9	9
②施策の意図(対象をどうしたいのか)		④成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア	調和のとれた人材に育てもらう	→	ア 学校生活が充実していると答えた児童の割合	%	目標値 実績値 達成率	89.0 87.0 97.8%	90.0 85.7 95.2%	90.0 89.0 98.9%	90.0 98.9%	90.0 98.9%
イ	確かな学力と豊かな人間性を育てもらう	→	イ 学校生活が充実していると答えた生徒の割合	%	目標値 実績値 達成率	80.0 89.8 112.3%	81.0 82.1 101.4%	82.0 79.9 97.4%	82.6 96.7%	83.2 96.0%
ウ		→	ウ 学力状況調査各教科平均正答率	%	目標値 実績値 達成率	58.0 68.3 117.8%	59.0 66.4 112.5%	60.0 64.7 107.8%	#DIV/0!	#DIV/0!
エ		→	エ 不登校児童生徒数(参考)	人	目標値 実績値 達成率	1 14 7.1%	1 15 6.7%	0 11 0.0%	9 81.8%	9 81.8%
⑤成果指標 設定の考え方		豊かな人間性を持ち、調和のとれた人材に育てもらうためには、バランスのとれた教育を受けることが重要であることから、「学校へ行くのが楽しい」と思える児童・生徒の割合、不登校児童生徒数を指標に、また、学力面は、県内で一斉に行われる学力・学習状況調査の平均正答率を指標に設定した。		⑥成果指標の 把握方法と 算定式等		ア・イ:学習状況調査 ウ:県学力テスト平均 エ:令和3年3月報告値				

2. 施策の役割分担

	①住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	②行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	・家庭、保護者の役割:学校行事への参加・協力、教育環境の整備支援、家庭での生活習慣・しつけ・教育の実践 ・地域社会の役割:登下校の安全確保や見守り、児童生徒との交流、学習活動への協力(農業体験、地域文化)	(町)施設・設備等を含む教育環境の整備及び維持管理と、教育基本方針の作成及び園・校に対する指導助言

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
2 年度 の 評価結果	①成果指標の時系列比較(成果は向上したか?低下したか?要因は?) 「学校生活が充実していると答えた児童は85.7%⇒89.0%、生徒は82.1%⇒71.9%と、小学校では向上がみられたが、中学校では低下した。中学校は下落幅が大きい、これは生徒がコロナ禍で学校生活に不安を感じたり、部活動に窮屈さを覚えたためではないかと考えられる。 令和2年度は全国学力・学習状況調査は実施されなかったため、岡山県学力・学習状況調査の結果を用いた。 令和2年度岡山県学力・学習状況調査(小3から小5、中1・2対象、令和2年4月実施)においては、平均正答率が小3国語69.1(岡山県75.4)-6.3p、小4国語60.6(岡山県68.6)-8p、小5国語67.3(岡山県70.4)-3.1p、小3算数68.2(岡山県74.7)-6.5p、小4算数68.5(岡山県72.9)-4.4p、小5算数63.9(岡山県65.1)-1.2p、中1国語65.5(岡山県67.5)-2.0p、中2国語68.5(岡山県73.3)-4.8p、中1数学67.3(岡山県67.0)+0.3p、中2数学48.3(岡山県59.2)-10.9p、中2英語56.8(岡山県63.8)-7.0pで、中1数学で県平均を上回っていたが、その他は全て県平均を下回った。全体的に学力調査では県平均よりも低い状態にあるといえる。
	②他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) 令和2年度岡山県学力・学習状況調査における質問紙調査(小5、中1・2対象)では、「学校に行くのが楽しい」に対し「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の肯定的回答の割合は、小5 89.0で岡山県82.0を7.0上回っている。中1は、88.0で岡山県87.3を0.7上回っている。中2は71.9で岡山県84.2を12.3と大きく下回っている。3学年の平均では、鏡野町83.0、岡山県84.5で、県を1.5ポイント下回る。成果指標の実績値は、令和2年度は、小学5年生、中学2年生の数値を用いている。 学力については中1数学以外は全て県平均を下回った。
	③住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?) 住民からは、子どもたちの学力アップのみならず、知・徳・体(生きる力)のバランスのとれた教育が求められている。また、小規模な小学校の保護者からは、統合を望む意見もある。
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取組や目標達成度 ■2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?)	
	それぞれの学校において、学力調査の結果分析を行い、学校経営アクションプランに反映させてきた。また、家庭学習のスタンダードを活用し、保護者への啓発、チャイムスタートなどにも取り組んだ。 中学校においては、平成28年度から全校で落ち着いて学習に取り組むことができ、成果が出てきつつある。 教育環境の面では、1人1台端末のタブレットを導入し、ICT教育環境の整備に努めた。
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向(うまくいかなかった取組や事務事業は?その原因は?) ・学力の向上に向けて、全国及び岡山県学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各校の課題を明確にし、課題改善に向けての取組を活性化させていく。各校の校内研修を充実させ、授業改善、補充学習等の取組を推進していく。また、ICT機器の活用、メディアコントロール等、家庭学習の充実に向けて児童生徒や保護者の意識改革などに取り組む。 ・不登校について、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの有効活用による児童生徒・保護者の教育相談をはじめ、問題行動に関する校内研修会やケース会議を開催し、教員の指導力の向上を図る。また、子どもたちに人間関係力や自己指導力の弱さが見受けられるため、生徒指導推進連絡協議会の開催等により課題を共有し、積極的な生徒指導の推進を図る。 ・学校施設長寿命化計画に基づき、教育環境の整備を進める。	